

## 中学弁論大会 (2025.2.21)

2月21日(金)7時間目、ロングホームルームの時間を利用して、中学の弁論大会がヨセフホールにて行われました。

中学生は、毎年冬休みに弁論大会に向けて弁論原稿を作成します。三学期のロングホームルームや終礼などを利用して仲間の原稿を読み、そこからクラス代表が選ばれ、この大会で12名がスピーチの出来映えを競います。

弁士の持ち時間は4分間。生徒及び教員の審査員によって、テーマの独自性、論理構成、適切な表現、説得力、さらに発表態度と、様々な角度から総合的に評価がなされます。

各弁士は、SNSや社会問題のみならず、自分の趣味への深いこだわりなど、多彩なテーマについて、それぞれ個性的な切り口でスピーチを展開し、客席も非常に盛り上がりました。

初めて参加する中1の弁論も、論理的に組み立てられた展開や説得力あるエピソードの挿入等、巧みな工夫がされており、とても聞き応えがありました。

最後に英語科丸山先生による、各弁論の長所をユーモラスに指摘した講評があり、大会は幕を閉じました。

審査の結果、1位は、言い間違いが新たな価値を生み出し、コミュニケーションを広げる可能性を示した、1年の沼君(「言い間違いで生まれる世界」)、2位は、他人の話を聞く力の欠如を鋭く指摘した、2年の川崎君(「老人をいじめて楽しいか!」)、3位は、社会の分断状況の中で学ぶことの重要性を述べた、1年の松井君(「僕たちの使命」)に決定しました。

